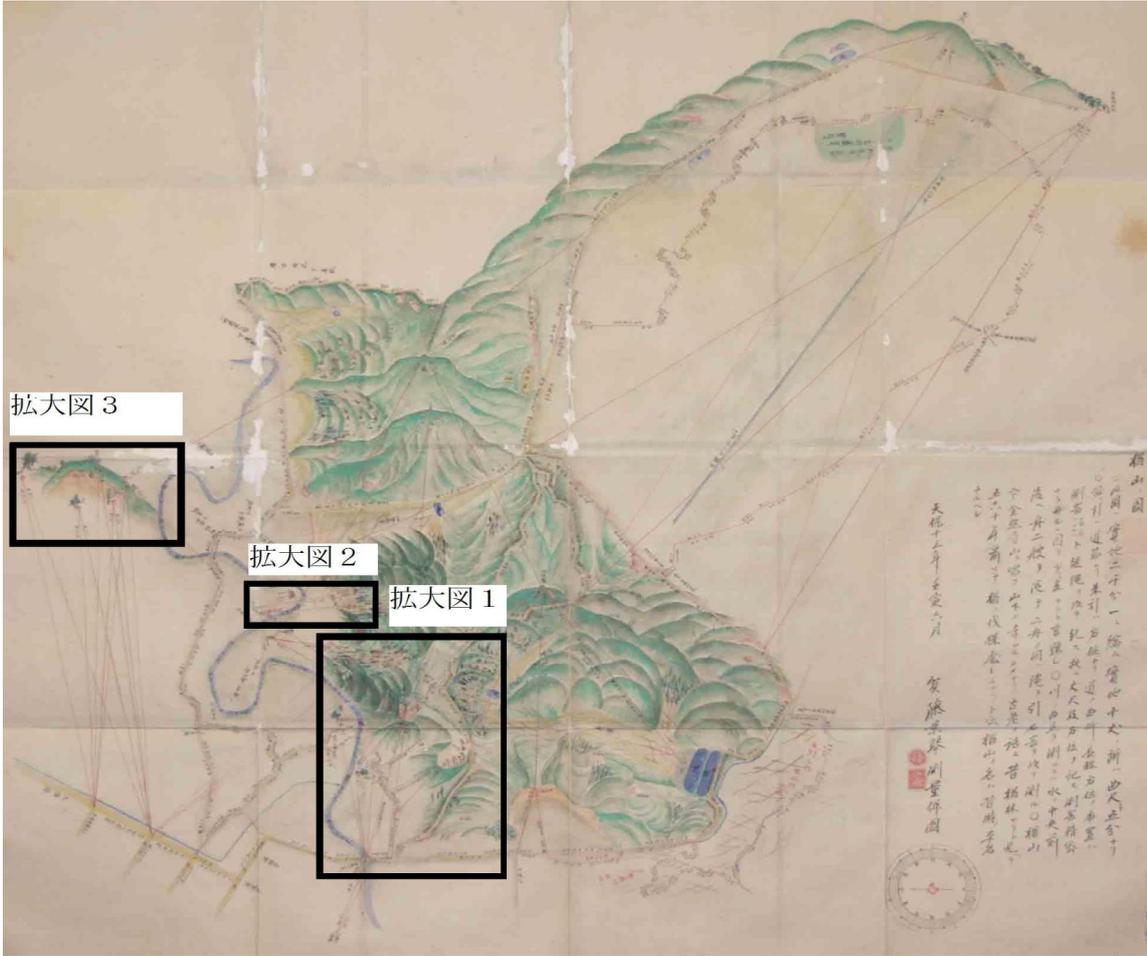


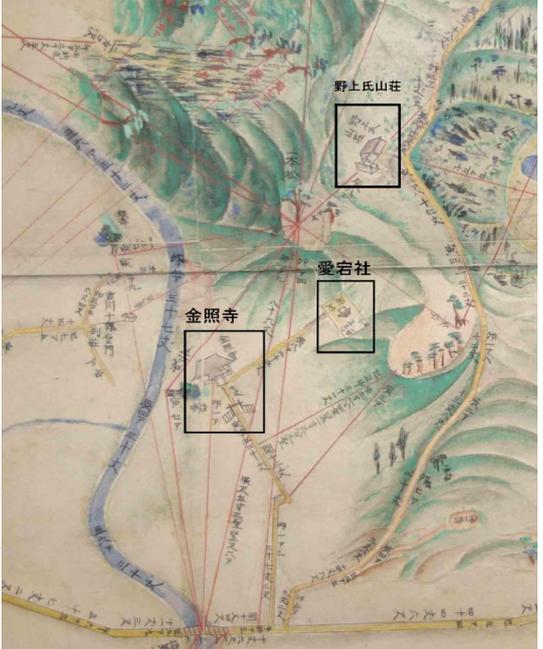
# 古文書倶楽部



【発行】  
秋田県公文書館  
2008.7  
第23号

今号の広報紙「古文書倶楽部」では、天保十三年（一八四二）木山方吟味役の加藤景琴（月篷・文政四ノ慶応三）が作成した「榎山絵図」を紹介いたします。眺めるほどに味わい深さを増す絵図の世界を、お楽しみください。

今月のおすすめ資料  
榎山絵図（混架29 192）



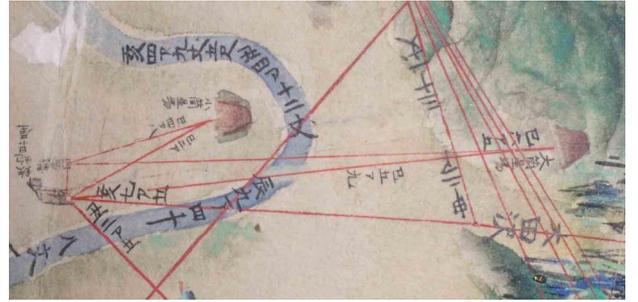
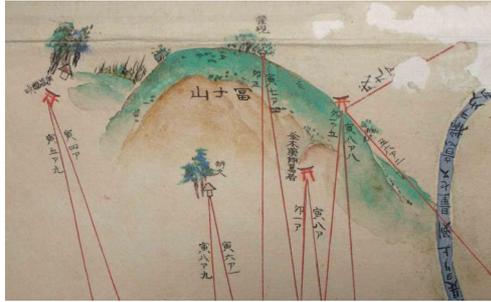
古い地図や絵図を見る楽しさの一つに、現在の町並みと比較することがあります。

今回紹介する絵図は、秋田市榎山の金照寺山付近を描いた絵図です。  
拡大図1 金照寺付近をご覧ください。太平川の側にある金照寺は、現在では若干手前にあります。しかし絵図中の金照寺から愛宕社に登る道は現在も変わりません。

絵図の右上には「野上氏山荘」と記されている二棟の建物があります。これは藩校明德館の祭酒（学長）を勤めた野上陳令の山荘で、この絵図が作成された天保十三年当時、野上は現役の祭酒でした。果たしてこの山荘は、購入したものなのか？借りているものなのか？どちらでしょう。

絵図の識語を見ると実地二〇〇〇分の一とあり、絵図中の赤線をたどると、どの位置から何を目標に測量を行ったかが分かります。拡大図1を見ると、金照寺山付近の測量は、尾根の松を目印に行っていたことが分かります。こうした樹木は今でもあるのでしょうか？

次に 拡大図2 をご覧ください。現在の榎山大元町で奥羽本線が通っている所です。その 拡大図2 には、榎山星場（鉄砲・大砲の射撃場）が描かれています。



これを現在の地図と比較すると、鉄砲の射撃地点から目標までは約一〇〇メートル、大砲の場合は太平川を飛び越して約二五〇メートルくらいあることが分かります。この時期の砲術稽古の様子は『洪江和光日記』第十一巻、天保十年七月十日条をご覧ください。(本紙第三号でも紹介しました)

「写真がよく見えない…」という方は、カウンターで「榎山絵図」を出納してください。

(畑中康博)

### 古文書こぼれ話 小山の地蔵さん 伝承と記録の接点

これは秋田市豊岩小山地区に伝わる話です。

文政の頃(一八一八〜一八三〇)、豊岩に勘九郎という若者がおりました。彼は一風変わった若者で、幼少の頃から墓地に立つ地蔵尊に親しみ、夜な夜な墓地に忍んで地蔵尊と談笑していました。やがて勘九郎はこの地蔵尊から一つの明珠を授かり、これ以来靈感を得て、数々の奇瑞を現すようになりました。

特に漁労には霊験あらたかたで、雄物川における鮭・鱒漁の節は祈願を頼まれては漁場に赴き、珠の霊力を借りて網の入れどころを指示し、これが一度として外れることがなく常に大漁であったといわれています。

また藩主の前で、一網ごとに魚の数を言い当てたこともあったといわれています。

この話は地域に伝わる昔話かと思いきや、石井忠行著『伊頭園茶話』一の巻(『新秋田叢書』第七巻一九〜二〇頁)に出ています。

或る時宏徳公(佐竹義厚)、二ツ屋(現・秋田市仁井田・県立秋田南高等学校付近)の潟に網を入、鯉をとらせ給ふ折、鮭網功者なれ八として、菅原源太夫其事に預り、源太夫より此法師(勘九郎)を呼て例の如くして大にえものありしに、二ツ屋の御小休所へ御内々に

て召連れ八、法師遙向ふより荒蕪敷たる上を膝行せしに、膝の皮を摺むきし事ありと、やゝ年を経て其玉いつ迄も持て八身の為によるまじと、疋田松塘大夫(家老)に申されて、此翁と松本(丹下・郡奉行)の両寿にて地蔵堂の土中に埋し也。

これによると、家老と郡奉行は勘九郎から地蔵尊から得た珠を取り上げ、地蔵堂の土に埋めたとあります。家老の疋田にとつて怪しげに映ったのかもしれないね。

しかし珠を失ったとはいえず、勘九郎を訪ねる人は後を絶たず、勘九郎は羅漢の如く崇拜されたと言ひ伝えにあります。

後に勘九郎は清覚院と名乗り、藩より地蔵堂を建立するための土地と志賀姓を拝領し、その子孫は現在に至っています。(嵯峨稔雄)

### 公文書館企画展のお知らせ 武士の日記を読む

前期 八月二日〜九月七日  
後期 十月二十四日〜十一月二十日  
時間 午前十時〜午後五時  
会場 二階特別展示室

解説会は、公文書館講座アーカイブズコース第二回で「武士の日記を読む」企画展解説会を行います。(八月八日(金)午後一時半〜三時)申し込み方法は「公文書館講座のお知らせ」をご覧ください。